

キリマンジャロコーヒー生産者

タンザニア・ルカニ村から

# キマロ先生が やってきた!



北摂協同農場の太木さんと談笑



能勢農場で牛を見学



能勢の生産者 植田さんの畑で



会員の皆さんやスタッフとよつ葉での交流会



バナナや芋なども一緒に栽培しています

高地特有の寒暖差が育む、甘みと力強いコクと酸味が特徴です



ルカニ村でのコーヒー栽培は、大規模なプランテーションとは違って、家族での小規模栽培です。アグロフォレストリーと呼ばれ、赤道付近の強烈な太陽光線から植物と土壌を守るために、日除樹〜果樹〜バナナ〜コーヒー〜豆または芋類を多層的に栽培して、自給食糧を栽培しながらコーヒー栽培をおこなっています。

キヨーズ加盟  
599円 省  
キリマンジャロ・粉  
600円 省  
キリマンジャロ・豆  
150g  
882円(本体840円)  
p.22もご覧ください



ルカニ村からキリマンジャロ山をのぞむ

## 8年間で図書館や 中学校が建ちました

アフリカの最高峰、キリマンジャロ山の麓のルカニ村からコーヒーをフェアトレードで届けるプロジェクトがスタートしたのは2002年。この8年間に、コーヒーの買い取り価格は大幅に上昇し、フェアトレードで得られた資金で図書館や保育所、中学校が建てられ、また病気になるにくいコーヒーの苗を共同購入するなど、成果は着実に上がってきました。昨年9月には、僕やよつ葉の会員さんを含む9名が「コーヒースタディツアー」でルカニ村を訪問し、村の生産者の皆さんと出会うことができました。



今年は逆に、ルカニ村から日本にということで、キマロさんの訪日が実現しました。

## 「生産者とのつながりを実感できた」交流会

キマロさんは、コーヒーの生産者でもあります。元々は小学校の先生。ルカニ村の小学校で27年間教えた後、今も保育所で教えるなど、村の子どもの教育に関わり続けています。ルカニ村からタンザニアの中心都市ダルエスサラームまで丸一日。そこから日本まで飛行機で更に丸一日かけて日本にやってきたキマロさん。普段は標高約1500mの高原の村に住んでいるので、「日本は暑い、暑い」としきりに言っていました。

日本では、釜ヶ崎を訪ねたり、能勢農場や能勢の農家の畑を見てもらったり、日本の学校の授業を見学しました。そしてよつ葉での講演をはじめ、大阪・京都・名古屋などで交流会・講演をしました。観光旅行とは違う日本の現実を少しでも感じてもらえたかな、と思います。

よつ葉での交流会の最後に「生産者とのつながりを実感することができて良かった。長い付き合いになると思うので、生産者の皆さんは身体に無理のないように、



フェアトレードの資金で保育園を開設しました。左端がキマロ先生

コーヒーづくりを頑張ってください」と会員さんからの発言がありました。自分たちが作っているコーヒーを、遠く離れた日本で飲んでいる消費者と出会うことができ、「フレンドシップ」が実際につながっていることを実感できたひと時だったと思います。発言を聞いたキマロさんは嬉しそうで少し誇らしげでした。(ひこばえ 福井)

関西よつ葉連絡会「life」430号、2010年10月、より転載。

2010年 9/11 京都新聞

### 凡語

未知の極楽郷から遠洋を渡ってきた薫風のよう。明治中期、物理学者で随筆家の寺田貞彦が初めてコーヒーと出会った時の感想だ。心まで包む香りと味わい。豆を選ぶ楽しさ。魅力は尽きない▼世界シェアは1%程度だが、上品な酸味で日本人に愛されるのがキリマンジャロだ。中央アフリカ東部の大陸最高峰の斜面で栽培される。京都大准教授の辻村英之さんは17年前、初めて生産地の一つ、ルカニ村を訪れた▼森林と主食のバナナの葉がコーヒーに日陰を提供する。バナナの葉を食べた家畜のふんは肥料に。知恵が息づく農法だった。村はコーヒー収入を教育や医療費、村の共同施設建設費に充てていた▼だが、価格の国際協定が撤廃され、この循環が崩れた。9年前、最大消費国アメリカの投機動向に引きずられ価格が暴落。若者は出稼ぎで村を去り、現金収入を得ようと違法森林伐採が横

行した▼「飲んで支えたい」。辻村さんは、産地と消費者を結び仕組みつくりに乗っ出した。最低価格を設けて輸入した豆を協力店で販売。一部を基金とし、図書館建設や有機農法用の苗購入につなげた▼今月、京都に招いた長老は、人々へ感謝とともに「コーヒーはみなさんの笑顔をつくる」と胸を張った。味と香りそれに「人のつながり」も品質だと辻村さんは思う。割高な印象だが豆1杯分約60円。秋の夜「未知の極楽郷」との友情を感じるのも味わい深い。



今回来日されるウィルバード・キマロさん(中央)

「キリマンジャロ」コーヒーの産地・ルカニ村において、農協の調査をはじめたのが1996年でした。その後、コーヒーのフードシステム(生産から消費までの連なり方)やコーヒー農家の経営構造についての調査も、ルカニ村を中心に行い、毎年1回は村を訪問しております。

また2001年、コーヒー産業の不調で生活水準が低下したルカニ村民を支えるため、「ルカニ村・フェアトレード・プロジェクト」をはじめました。そして2008年、キョーワズ珈琲に「キリマンジャロ・ルカニアラビカ」の焙煎・販売をお願いし、フェア・トレードが本格化したことで、ルカニ村におけるその影響・役割が鮮明に浮かび上がってきました。

本講演会では、ルカニ村におけるコーヒー生産の実態とフェア・トレードの影響・役割について、皆様にお伝えするとともに、ルカニ村から招いたコーヒー生産者から直接、ルカニ村の現状を聞きたいと思っております。さらに「ルカニアラビカ」の調達を担う兼松、焙煎・販売を担うキョーワズ珈琲から、ルカニ村に対するそれぞれの思いを語ってまいります。そして最後に、同村を事例に作成された社会科教材の紹介をさせていただきます。

多数の皆様のご参加をお待ちしています。

辻村英之(京都大学農学研究科・准教授)



キリマンジャロ山と家庭畑



フェアトレード基金で支援する農協



ルカニ村の中央広場と農協

2010

9月5日(日) 13時15分～  
16時40分

キャンパスプラザ京都

5階 第1講義室

JR京都駅南口・ビックカメラ前  
駅ビル駐車場西側

■参加費: **無料** (事前申込必要、入場定員200名)  
**ルカニ村コーヒーのおみやげ付き**

■申込先: **キョーワズ珈琲株式会社**

FAX: 0774-43-6382 / E-mail: mail@kyowas.co.jp

店舗、もしくは本社へTELかFAXして下さい。

※先着順 定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

■プログラム

- 12:30- 受付開始
- 13:15-13:20 開会あいさつ [辻村英之(京都大学農学研究科・准教授)]
- 13:20-14:20 ルカニ村におけるフェア・トレードの役割 [辻村英之]
- 14:20-14:35 コメント [ウィルバード・キマロ(ルカニ農協・専務局長)]
- 14:35-14:55 質疑応答
- 14:55-15:05 休憩
- 15:05-15:45 「ルカニアラビカ」の調達と焙煎・販売を担って  
[武井雄二郎(兼松・食品第1部・飲料原料課・課長補佐)]  
[辻 龍夫(キョーワズ珈琲・代表取締役)]
- 15:45-15:55 質疑応答
- 15:55-16:25 ルカニ村をケースにした教材「コーヒー・モノ・ガタリ」  
[岡田隆江(同志社中学校・高等学校・社会科教師)]
- 16:25-16:35 質疑応答
- 16:35-16:40 閉会あいさつ [藤尾雄三(園芸飲料開発研究所・所長)]

■主催: 日本学術振興会科学研究費補助金・園芸研究(C)  
「キリマンジャロの農産物流通と農村発展: フェア・トレードの役割」  
京都大学農学研究科・生物資源経済学 辻村英之

■共催: キョーワズ珈琲株式会社 / 園芸飲料開発研究所 / JAPAN TANZANIA TOURS LTD /  
関西・中部アフリカネットワーク / 株式会社マイチケット

ご挨拶

皆さま、こんにちは。ルカニ村産コーヒーを飲んでいただいている、日本の消費者の方々にお会いすることができて、たいへん幸せに思います。

私はウィルバード・キマロと申します。27年間先生をし、最後の5年間はルカニ小学校の校長をしました。現在は退職しましたが、村で保育所と塾（小中学生向け）を経営し、先生を続けております。そして同時に、コーヒーの生産もしております。

私たちがコーヒーを生産するのは、子供たちを学校に行かせるお金を得るためです。しかしコーヒーの価格が下落してしまい、村での生活が悪化しました。子供たちへの教育が難しくなってしまいました。

辻村先生のアドバイスに従って、私たちは日本のキョウワズ珈琲に直接的に販売し、公正な価格とフェアトレード・プレミアムを得ることができるようになりました。そしてフェアトレード・プレミアムで、村が重視する様々なコミュニティ・プロジェクトが進展しました。

村民たちは、日本の消費者が求めているものを知り、皆さまの健康のことを考えた有機コーヒーをはじめとして、高い品質のコーヒーを栽培すること、よい加工方法に努めることなど、真剣に取り組むようになりました。

私たちは、上質で最高に美味しいコーヒーを、皆さんに届けたいと思っております。幸いなことに、私たちの村は火山性の土壌で、アラビカコーヒーの生産に適しております。飲んでいただければ、必ず皆さんは笑顔になるでしょう。

私たちの友情は永遠です。村民たちはフェアトレード・プロジェクトに敬意を表しております。そしてぜひ、私たちの村においでください。緑豊かで空気はきれい。雪に覆われた美しい山を見ることもできます。必ず楽しんでもらえるでしょう。

皆さま、本日はこの講演会にご参加いただき、本当にありがとうございました。

辻村講演に対するコメント

14年間、私は彼の研究をサポートしてきました。本日彼は、私たち村民の態度・行動がどう変化したのか伝えましたが、それは村の真実の姿です。私たち村民は、彼にずっと村にいてもらいたいと思ってます。

確かに彼が村に来てから、村が大きく変わりました。そしてフェアトレード・プロジェクトのおかげで、社会プロジェクトが進むようになりました。

彼の研究成果であるフェアトレード・プロジェクトを、私たちは大切にしていきたいと思えます。

WILBARD E. KIMARO



## タンザニア

タンザニア連合共和国  
United Republic of Tanzania

首都  
ドドマ(法律上の首都)  
実質的首都機能は  
ダルエスサラーム

言語  
スワヒリ語、英語

面積  
約945,087km<sup>2</sup>

人口  
約4,248万人

通貨  
タンザニア・シリング

主要産業  
農業、鉱工業、観光業など

日本からの所要時間(目安)  
約24時間以上

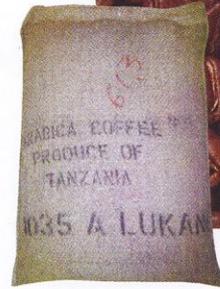
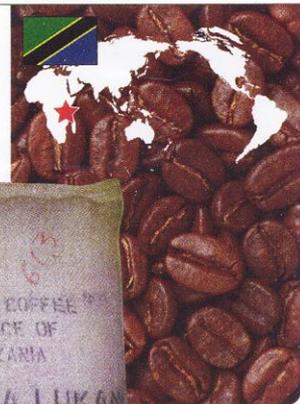
日本との時差  
約マイナス6時間

Givenfarm 10 TANZANIA・LUKANI ARABICA

# キリマンジャロ州ルカニ村

原産国	タンザニア
地域	タンザニア連合共和国 キリマンジャロ州 ルカニ村
農園名	キリマンジャロ州 ルカニ村
農園主	—
品種	アラビカ種
標高	1,500m~1,700m
特長	フルウォッシュド、サンドライ

★こちらのコーヒー豆の商品 / キリマンジャロ ルカニアラビカ



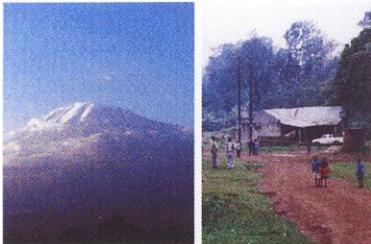
### 農園 STORY

「キリマンジャロ」を飲んで  
ルカニ村に中学校を建設しよう。  
キョーワズ珈琲が友好支援する  
キリマンジャロ・ルカニアラビカ。



### キョーワズ珈琲とルカニ村との出逢い

2001年よりルカニ村の主産業であるコーヒー産業の復興の為「ルカニ村・フェアトレード・プロジェクト」が京都大学農学研究科・辻村准教授を中心に始まりました。キョーワズ珈琲では当プロジェクトに賛同し、2008年より「ルカニ村」産出コーヒーを取り扱う事を決め、新たに「フレンドシップコーヒー」として消費者の皆様にご紹介いたしました。2010年9月には、ルカニ村より生産者が訪れ、日本の消費者との交流会も開かれました。



ルカニ村の生産者が来日した講演会の模様

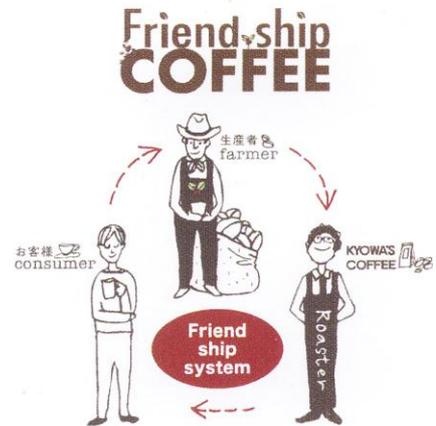


### キリマンジャロ州ルカニ村で作る コーヒー豆

キリマンジャロ州ルカニ村はアフリカ大陸最高峰キリマンジャロ山の西斜面に位置するチャガ民族の1農村です。「ルカニ村」のコーヒーの木は、シェードツリー(バナナ、果実、森林の高木・中木)によって守られ、家畜の糞が堆肥として利用されています。又バナナの葉や牧草が家畜の飼料とされており農林畜複合システムで育てられています。これは「アグロフォレストリー」と呼ばれ、環境保全につながる農法です。コーヒーの収穫は各農家単位で、赤く完熟した実を一粒一粒丁寧に手摘みし、フルウォッシュドと呼ばれる精選工程(ほとんどが手作業)で加工し、農家の庭先で天日乾燥されます。高地産特有の寒暖の差と、肥沃な土壌が生み出した「ルカニ村」産キリマンジャロコーヒーは、力強いボディと適度な酸味が調和し、存在感のある口当たりと後味の良さが絶品のコーヒーです。

### キョーワズ珈琲の友好支援

2008年より取り組みを開始。京都大学農学研究科・辻村准教授が中心となりコーヒー産業復興をめざす、タンザニア「ルカニ村・フェアトレードプロジェクト」に賛同して開発した「キリマンジャロ・ルカニアラビカ」コーヒー。このフレンドシップコーヒーを飲んでいただくことで、ルカニ中学校の建設を支援することができます。



フレンドシップコーヒーとは、コーヒー豆を大切に育ててくれる生産者と心を込めて焙煎するキョーワズ珈琲。そして、おいしく楽しむお客様とを結び友好支援をかたちにしたコーヒーです。